

平成29年度～令和元年度

ご近所福祉 ネットワーク

活動紹介



赤磐市社協マスコット

とももちちゃん

社会福祉法人 赤磐市社会福祉協議会

も く じ



ご近所福祉ネットワーク活動とは	1
【活動紹介】	
①穂崎 穂崎・安心ネットワーク「絆」	2・3
②下市 下市レインボー会	4・5
③山陽5丁目 もんぜん安心ネット	6・7
④山陽7丁目 山陽7丁目見守りネットワーク	8・9
⑤桜が丘西1丁目 高齢者支援推進ネットワーク「西一たすけあい隊」	10・11
⑥桜が丘西5丁目 桜が丘西5丁目「みんなで声かけあい」	12・13
⑦桜が丘西6丁目 助け合いネットワーク	14・15
⑧桜が丘西8丁目 桜が丘西8丁目町内会見守り隊	16・17
⑨西軽部 西軽部「愛の宅配百歳会」	18・19
⑩小原上 小原上見守り活動	20・21
⑪弥上 やがみ（区見守りネット）	22・23
⑫稗田 稗田見守りネットワーク「にこにこ」	24・25
⑬円光寺 円光寺見回り会	26・27
⑭松木 松木げんきだヨ！！	28・29
⑮桜が丘東1丁目 桜が丘東1丁目「日回り（ひまわり）会」	30・31
⑯桜が丘東4丁目 東4生活支援ネット	32・33





ご近所福祉ネットワーク活動とは

「地域での孤立・閉じこもり防止」と「生活・福祉課題の早期発見の仕組みづくり」

地域での孤立・閉じこもり防止や健康・生きがいづくりを目的とするふれあい・いきいきサロンは、市内でも活動の輪が広がっています。

今後、これまでの活動で培った仲間同志の”ふれあい”から、暮らしを見守る”支え合い”のネットワークへステップアップしていくことが求められています。

一人暮らしで普段の生活に不安があるかた、体調の不具合等でサロンに出て来られなくなったかたなど、サロン等を通じて深まったつながりを活かし、民生委員、福祉推進員等と協力して行う見守り・声かけ活動をご近所福祉ネットワーク活動といいます。

赤警市社会福祉協議会では、地域の絆づくりとして、自治会単位の見守りや声かけなど、住民主体による日常的な支え合いのネットワークづくりの推進を支援するため、ご近所福祉ネットワーク活動推進事業を実施しています。

「ふれあい」から「支え合い」のネットワークへ

ご近所での見守り声かけ



活動事例 1

「向こう三軒両隣」のお互いが心と心をつなぎ合わせることで生まれる「絆」 穂崎・安心ネットワーク「絆」

穂崎区

○地区の概要

地域の特性など

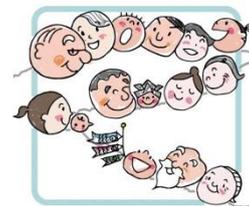
- 農家が多く高齢化が進んでいます。
- 空き家が増えています。
- 地区が広く幾つも団地があります。
- 新興住宅地などが無く子どもが減っています。
- 車に乗らない人は移動が不便です。

穂崎区プロフィール

- 地区人口 688人
- 65歳以上の人口 291人
- 高齢化率 42.3%
- 世帯数 269世帯
令和元年10月1日現在

○活動を開始したきっかけ

新区長になって暮らしの安全の一環として福祉にも力を入れることになったことがきっかけでした。



○活動紹介

R1~

団体の概要

- 団体名 ----- 穂崎・安心ネットワーク「絆」
- 協力員 ----- 区長、民生委員、福祉推進員、いきいきサロン代表、土曜サロン代表女性会、愛育委員、栄養委員、区総代、ボランティア
- 対象者 ----- 75歳以上のかたと緊急時要支援者
- 主な活動内容 --
 - お互いの変化に気づきやすいということから、小さな地域ごとに「向こう三軒両隣」の見守りを行う。
 - 相談役は地域の総代が担う。

活動ステップ

●救急医療情報キット「命のボタン」の配布

①地域の女性から区長に「命のボタン」の紹介あり



②区会で検討



③区長の声掛けでメンバー招集

▼『絆』の取り組みについての話し合い



④会議の中で「命のボタン」を全世帯に配布決定



⑤メンバー全員で「命のボタン」のキットづくり



⑥総代をリーダーとしてメンバー全員で各戸の訪問



⑦会議で結果報告 → 次回へとつなげる！



▲全世帯分の「命のボタン」キットを作成中

STEP!



「命のボタン」のロゴマークに♥を使っています。これは人の命を繋ぐというだけでなく、安心も加えた思いからです。「向こう三軒両隣」のお互いが心と心を通じ合う事で生まれる「絆」、そして安心。共存共栄・自他共楽こそが安心というネットワークの頂点だと思います。

○活動の成果と、課題や今後の展望

活動の成果

- ★各戸を訪問したことで、「直接喜びの声が聞けた」「普段会う事の無いかたと話が出来た」「地域の様子が良く分かった」などの報告がありました。
- ★「命のボタンが役に立ちました」という声が早くも数件届いています。
- ★地域内で男性と女性が同じテーマで話し合える場が出来ました。
- ★みんなで話し合うことで地域内の様々な出来事や問題も話題になります。

課題と今後の展望

- ★協力者やボランティアは高齢者が多く、次の世代に繋げていけるかが課題です。
- ★協力メンバーを増やしていきたいと思っています。
- ★誰もが安心して住み慣れた家で暮らし続けられるような地域づくりを目指していきたいと思っています。また出来るだけ独りぼっちを作らない様な工夫もしていきたいと思っています。
- ★今後は定期的な会議を開くことと、ポスターや「安心マップ」などを作る予定になっています。



▲区が発行する「ほさき新聞」でも紹介しました！

活動事例 2

地区の組織と連携した地域づくり

下市レインボー会

下市区

○地区の概要

地域の特徴など

- ・山陽地域の中心部に位置し、市役所、銀行、スーパー等の生活の基盤が揃う地区です。
- ・子どもから高齢者（3世代）のつながりを広げるために、区の行事を大切にしています。

下市区プロフィール

- ・地区人口 802人
 - ・65歳以上の人口 216人
 - ・高齢化率 26.9%
 - ・世帯数 355世帯
- 令和元年10月1日現在

○活動を開始したきっかけ

高齢化が進むなかで、「支え合い」心の輪をご近所から広げていくために、「声かけ・見守り」を掲げて元気を与え、元気をもらうことで、明るい元気な地区をみんなで目指します。

○活動紹介

H29~

団体名：下市レインボー会

構成員：12人

（区長、総代、民生委員児童委員、福祉推進員、老人会、愛育委員）

対象者：75歳以上の高齢者又は見守りが必要と思われる方

活動内容：・声かけ・見守り

- ・自主防災組織と連携した体制づくり
- ・地区民へ呼びかけ運動、ポスター作成
- ・みまもり対象者訪問、気がりシートによる調査活動

■見守り隊・気がりシート作成

- ・見守り隊連絡員から気がりシート提出を受けた場合、総代会（2か月に1回）にて問題解決を行います。

※緊急の場合は、区長・民生委員・福祉推進員で解決を行います。

★設立当初のメンバー



■緊急時の連絡カード作成

自主防災組織を立ち上げている中で、災害緊急時に親族や友人に連絡が取れない場合に、見守りネットワークの見守り隊が担当します。

○活動の成果と、課題や今後の展望

活動の成果

- ・防災マップ作りを通して、地域で起こりうる災害の危険性を知ることが出来ました。
- ・「声かけ・見守り」のポスターを目に付くゴミステーションに貼り、地区住民に声かけの一步としました。
- ・知らない情報を地区住民から知ることができました。
- ・各委員が主導で行事の開催が行えるようになりました。(協力体制の構築)
- ・地区行事へレインボー会として参加し、会のPRを行いました。

課題や今後の展望

- ・自主防災と絡め会合に出席して「声かけ・見守り」活動を浸透させていきたいと思います。
- ・防災マップを活用した、災害緊急時の役割分担の明確化をしていきます。



▲活動のポスターを作成し、集会所や掲示板、ゴミステーションなどへ貼って呼びかけをしています

下市地域・見守り隊・気がかりシート			
月 日	平成29年 月 日		
各 組	門前東 門前西 門前南 西 中 東 団地北 団地南 (該当に○をつけて下さい)	調査担当者	
住 所	下市		
ふりがな			
名 前			
生年月日	<input type="checkbox"/> 大正 <input type="checkbox"/> 昭和 <input type="checkbox"/> 平成 年 月 日 (満 歳)		
電話番号	<input type="checkbox"/> 自宅		
	<input type="checkbox"/> 携帯		
	<input type="checkbox"/> 緊急連絡先		
調査内容	1. 最近新聞受けに新聞・郵便物が、溜まっている。 2. 洗濯物が干しっぱなしである。 3. 室内灯が点いていない。 4. 塵先に出たり・最近外出を見たりしない。 6. 窓やカーテンが開いていない。 7. 病弱・施設に入所された。 8. 最近老人会に来なくなった。 9. サークルに来なくなった。 10. その他 (該当欄に○をつけて下さい)		
特記事項			

▲見守り隊・気がかりシート



▲活動の基盤となるマップづくり

活動事例 3

「お世話上手」「お世話され上手」へ もんぜん安心ネット

山陽5丁目町内会

〇地区の概要

地域の特徴など

●自治会活動

- ①もんぜんまつり
- ②門前長寿会（老人クラブ）
- ③町内環境整備

●その他

身近に人と交わる「交流の場」の設置

- ①いきいき百歳体操（平成 28 年～）
- ②ふれあい・いきいきサロン（平成 30 年～）



山陽5丁目プロフィール

- ・地区人口 696 人
 - ・65 歳以上の人口 383 人
 - ・高齢化率 55.5%
 - ・世帯数 303 世帯
- 令和元年 10 月 1 日現在

山陽団地の北東部に位置し、中央には門前公園・もんぜん広場、その中に集会所があり素晴らしい居住環境で幼児から高齢者まで恩恵を受けています。

〇活動を開始したきっかけ

都市化された マインド

- ・他者と深く関わらなくても暮らしていける
- ・他者に迷惑をかけなければ、個人の自由を尊重、依存先の少ないのが「自立」
- ・他者に迷惑をかけないことは美德であるが、他者を排除＝「バリア」の設置

しかし、歳を重ね、地域で安心・安全に暮らしていくためには、
依存先、他者との関わりを多く持つことが大切だと思われます。
高齢期後半になれば活動範囲が狭くなり、家族と地域の人に集約され、
独居者には特に配慮が必要となります。



そこで、平成 30 年から町内会長、老人会会長（平成 30 年から福祉推進員を兼務）とともに、
高齢化率が 50%を超える現状から「ご近所福祉ネットワーク活動（もんぜん安心ネット）」
で町民同士の助け合いの必要性を共通認識しました。

○活動紹介

R1～

団体名：もんぜん安心ネット

構成員：10人

(区長、民生委員児童委員、福祉推進員、ボランティア)

活動内容：下記のとおり

- ★町内でもんぜん安心ネットの協力者を募集
- ★協力者会議を定期的を実施
- ★**全世帯を対象にアンケート（回収率71%）**を実施し、当面の活動の対象者を把握

※町内住民全員が活動の対象！

もんぜん安心ネット「声かけ・見守り」調査表

協力者 記入日：年 月 日
記入者氏名： 協力者氏名：

もんぜん安心ネット内での情報共有に同意していただける世帯は、下記項目へのご記入をお願いします。なお、協力者の訪問時間調査表が提出できますように事前にご記入し準備いただければ幸いです。不明な事項がありましたらその時協力者にお尋ねください。

記入者氏名： 住所： 番 号
(健康・病弱) (歳 男・女) 取

項目	状況
独居者 高齢者	健康・病弱・施設入所(有・無) 病院入院(有・無)
高齢者(家族)	健康・病弱・施設入所(有・無) 続柄() 病院入院(有・無)
障害者(家族)	健康・病弱・施設入所(有・無) 続柄() 病院入院(有・無)
ご近所連絡カードの作成	①安心網の構成のご近所での声かけ・助け合い委員の構成/無益時の初期対応強化等のため作成 作成に 賛成・反対・不明
自由記入欄	

◆ この情報は、もんぜん安心ネット活動(協力者で情報の共有等)目的のみに使用します。

○今後の展望・活動について

目指す町内会像

「お世話上手」・「お世話され上手」の町内会を目指します。

住み慣れたわが町わが家で、安心して暮らし続けることができ、誰もが一人で悩まず身近な人に相談でき、支え合い・助け合いの近隣付き合いができる町内会。

若い世代が住みやすい町内会を作ることが、5丁目の活性化に繋がります。

今後の活動について

- ①将来に向けて
 - ・全住民に対して「もんぜん安心ネット」の必要性の啓蒙活動(各種組織を活用、町内会回覧、チラシ配布)
- ②当面の活動：アンケート回収結果により
 - ・支援対象者の特定、支援内容・支援要領の決定、支援活動の実施
 - ・ご近所ネットワークの形成の第一歩として連絡カードの作成によりご近所付き合い開拓、都市化マインドの変革・バリア打破に挑戦
- ③個人情報の収集・保管、使用が課題



[協力者会議の様子]

活動事例 4

住民の安心を支える「緊急医療情報キット」

山陽7丁目見守りネットワーク

山陽7丁目町内会

○地区の概要

地域の特性など

- 緊急時の連絡は町内会長へ入り、会長と副会長が二人体制で状況確認を行っています。
- 現在、友愛訪問は町内会の福祉部長と福祉推進員が合同で実施しています。
- 町内会独自のサロン（みちくさの会・ふれあい会）があります。
→サロンに併せて、とくし丸（移動販売）を利用しています。



山陽7丁目プロフィール

- 地区人口 678人
- 65歳以上の人口 247人
- 高齢化率 36.4%
- 世帯数 372世帯

令和元年10月1日現在

○活動を開始したきっかけ

団地内では、高齢者世帯の増加が課題となっています。若い世帯は桜が丘へ、高齢者世帯は山陽7丁目へ転居されるケースが少なくありません。また、単身世帯・一人親世帯も多いのが町内会の特徴です。町内会行事を行いながら、町内のふれあいの機会を設けていますが、日常的な見守りについては十分ではありません。特に団地の問題として懸念されるのが孤独死です。ここ数年でもケースがある中で、日頃の住民同士の日常的な関わりのしくみを設けることで、少しでも不幸な住民を出したくありません。高齢者だけでなく、先に述べた世帯との関わりも持ちながら、町内全体として見守り・見守られる活動を推進していきたいです。



○活動紹介

H30～

- 団体名：山陽7丁目見守りネットワーク
- 協力員（構成員）：町内会長・副会長・民生委員児童委員・福祉推進員・栄養委員・愛育委員
ボランティア
- 対象：65歳以上のいる世帯のうち、活動を希望される世帯
- 主な活動内容：上記の世帯（約200世帯）を対象に、緊急医療情報キットの希望調査を行い、希望される世帯に対して配布を行っています。

○活動経過

①ご近所福祉ネットワーク案内を受ける

②町内会での課題・不安ごとについて共有

③助成事業をきっかけに取り組みの検討

④緊急医療情報キットの配布（案）として挙がる

⑤町内会にて提案・承認される

⑥希望調査の実施（対象世帯：約 200 世帯）

⑦希望者への緊急医療情報キットの配布（希望された世帯：約 100 世帯）



○活動の成果と、課題や今後の展望

- ★緊急時の対応に役立てられる事を期待しています。
- ★緊急医療情報キットの配布について消防署・地域包括支援センターへ報告しています。
- ★新しく転居される世帯の把握・関わるための手段としても考えています。
- ★この活動を開始したことで、安心できる町内会の為に町内会も動いている事を住民に興味を持ってもらいたいです。
- ★今までにもあった、地域のかたを気にする雰囲気づくりを、町内全体に広げていきたいです。

活動事例 5

住民の支える「生活支援サービス」と「ネットワークづくり」 西一たすけあい隊

桜が丘西1丁目町内会

○地区の概要

地域の特性など

- ・ネオポリス内で一番早く分譲住宅販売が開始された地域で、以後約40年を経過し、高齢者世帯が年々増えてきています。
- ・地域内には、丘陵地に建つ住宅も多く、坂道があるため、高齢者には住みづらい環境となっている地区があります。

桜が丘西1丁目プロフィール

- ・地区人口 1,256人
 - ・65歳以上の人口 389人
 - ・高齢化率 31.0%
 - ・世帯数 529世帯
- 令和元年10月1日現在

○活動を開始したきっかけ

友愛訪問を重ねる中で、一人暮らしの高齢者や高齢者だけの世帯が抱える課題をつぶさを感じ、通院、買い物、ゴミ出し等で困っている高齢者を地域で支え合うしくみを早急につくる必要があると思ったため活動を開始しました。

○活動経過

H29～

- ①町内会長、福祉推進員、民生委員児童委員の三者で、地区内の高齢者対策について話し合いを重ねました。
- ②町内会役員会で、「高齢弱者を支えるしくみを作ってはどうか。」と提案し、承認を得ました。
- ③町内会役員をメンバーとした検討委員会を設立しました。
- ④支援対象者の要件を決定し、対象者全員にアンケートによる支援希望項目を調査しました。
- ⑤支援を希望した全員から、面談により支援内容詳細調査を実施しました。（聞き取り調査）
- ⑥支援者募集ちらしを町内会全戸に配布し、支援者を募りました。
- ⑦検討委員会を解散し、支援者を中心とした新たな組織を結成しました。
- ⑧支援者全員による会議を開催し、活動団体名を「西一たすけあい隊」とし、活動の基本理念活動方針、規約、役員等を決めました。
- ⑨支援開始に際して、支援についての細部にわたる申し合わせ事項、利用者やその家族への説明文書、同意書、活動時の保険加入、活動報告書の様式等々について協議、決定しました。
- ⑩事務局長がコーディネーター業務を担当し、利用者と支援者との日程調整を行った後、1ヶ月ごとの支援計画表を作成し、月末までに利用者と支援者に配付します。
- ⑪年6回、支援者会議を開催し、活動報告と活動上の課題等を出し合い、事業改善に努めています。
- ⑫利用者と支援者の親睦を図るため、茶話会（交流会）を年2回（5月・11月）実施しています。

○活動紹介

団体名：高齢者支援推進ネットワーク「西一たすけあい隊」

構成員：14人（男性8人、女性6人）

- 対象者：・桜が丘西1丁目に在住する
- ・75歳以上の一人暮らし高齢者
 - ・80歳以上の高齢者のみの世帯



活動内容：支援を希望された高齢者世帯を対象に、見守り・声かけ、買物・通院送迎、ゴミ出し等の支援活動が無償で実施しています。定期的な支援者会議を実施し、活動状況の報告や活動実施に伴う課題について話し合うことで、事業内容の改善に努めています。



○活動の成果と、課題や今後の展望

活動の成果

- ・利用者やその家族から、「本当にありがたい。支援者の方々にとっても感謝している。今後もずっと支援を継続してもらいたい。」とのご意見をいただいている。我々の活動が利用者に喜ばれていることが、一番の成果です。
- ・「西一たすけあい隊」の活動の様子を「西一たすけあい隊だより」や「広報あかいわ」「福祉のひろば」で紹介したり、町内会役員会等で活動状況を報告したりすることで、次第に地区内で周知されてきています。
- ・「西一たすけあい隊」を立ち上げたことで、地域の高齢者を地域で支え合うしくみづくりのきっかけをつくることができました。
- ・支援者会議を重ね、活動の問題点を出し合い、改善策を話し合うことで、支援者同士の絆が深まりつつあります。
- ・活動を通じて多くのことを学び、利用者から感謝されることで、支援者自身の生きがいを見出すきっかけとなっています。



課題や今後の展望

- ・支援希望者（利用者）は今後増えていくものの、隊員数が不足しているため、活動が制限されていることが一番の課題です。今後、広報活動等を充実させることで、隊員を一人でも多く増やし、より多くの支援希望者の要望に応えていきたいと思っています。
- ・活動時、特に通院・買い物送迎時、事故等で隊員所有の自家用車が損傷した場合の補償措置に苦慮しています。事故を起こさないよう、安全な運転・送迎を呼びかけています。
- ・隊員のほとんどが高齢者で、しかも仕事に従事している人が多いため、スケジュールの調整に苦慮しています。コーディネーター役の負担が大きいことが課題となっています。
- ・今後は、隊員を増やすとともに、隊員の若返りを図るよう努めることで、この支援活動が継続・発展していけるよう努力していきたいです。

活動事例 6

ご近所同士の支え合い活動

桜が丘西5丁目「みんなで声かけあい」

桜が丘西5丁目町内会

○地区の概要

地域の特性など

- ・桜が丘西5丁目は桜が丘東西の中央に位置し、近隣には大型スーパー等があり、買い物の便は比較的良いです。
- ・高齢化率は桜が丘西で最も高いですが、近年老人クラブが組織され、ふれあいサロンやいきいき百歳体操が開催されるなど、地域の中での活動が活発になっています。
- ・一方で、町内会の若い人が行事に参加される方が少しずつ増えています。

桜が丘西5丁目プロフィール

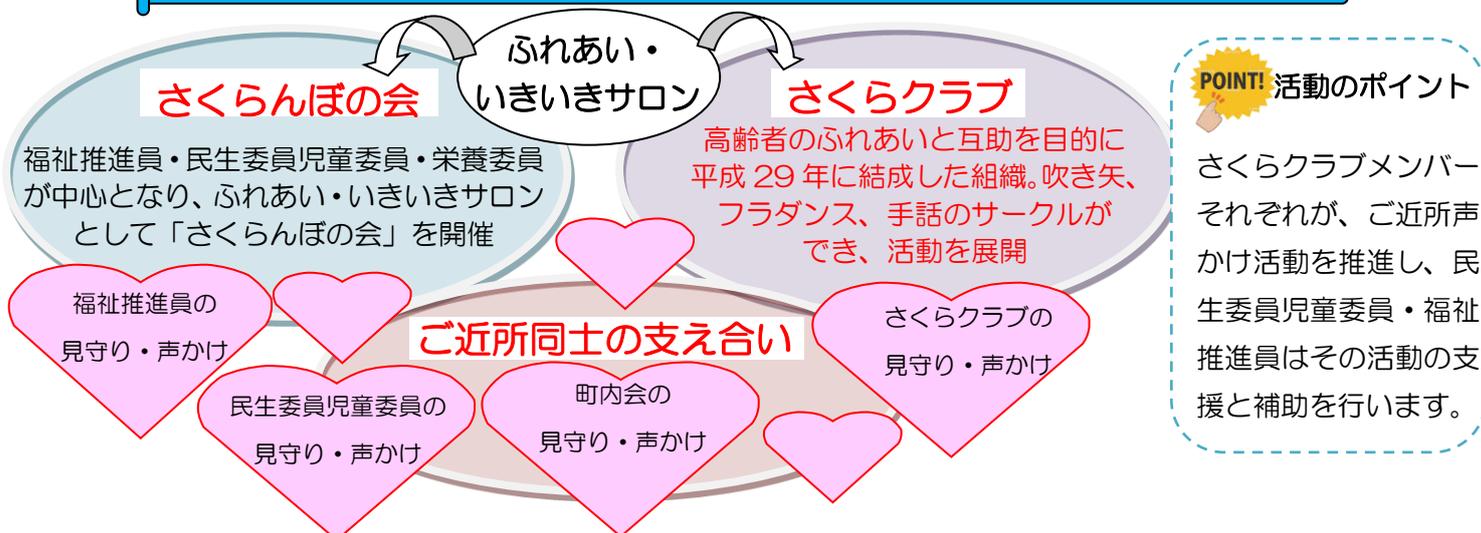
・地区人口	530人
・65歳以上の人口	187人
・高齢化率	35.3%
・世帯数	229世帯

令和元年10月1日現在

○活動を開始したきっかけ

- ① 民生委員児童委員、福祉推進員、栄養委員が中心となり、ふれあい・いきいきサロン（さくらんぼの会）を開催し、「孤立・閉じこもり防止や健康・生きがいつくり」のため、ふれあいの場づくりを行ってきました。
- ② 平成29年度より「さくらクラブ」（桜が丘西5丁目老人クラブ）を立ち上げ、高齢者のふれあいと互助を目的として活動を行っています。
- ③ 民生委員児童委員、福祉推進員等の各委員に福祉活動の負担が集中していたが、さくらクラブの結成により、ご近所同士の声かけ活動がしやすくなり、見守り・声かけ活動の体制が出来てきました。各委員だけではなく、さくらクラブ、5丁目町内会等、多くの方が関わり、ご近所での声かけ活動を行うこととなりました。

桜が丘西5丁目 ご近所福祉ネットワーク活動推進のイメージ図

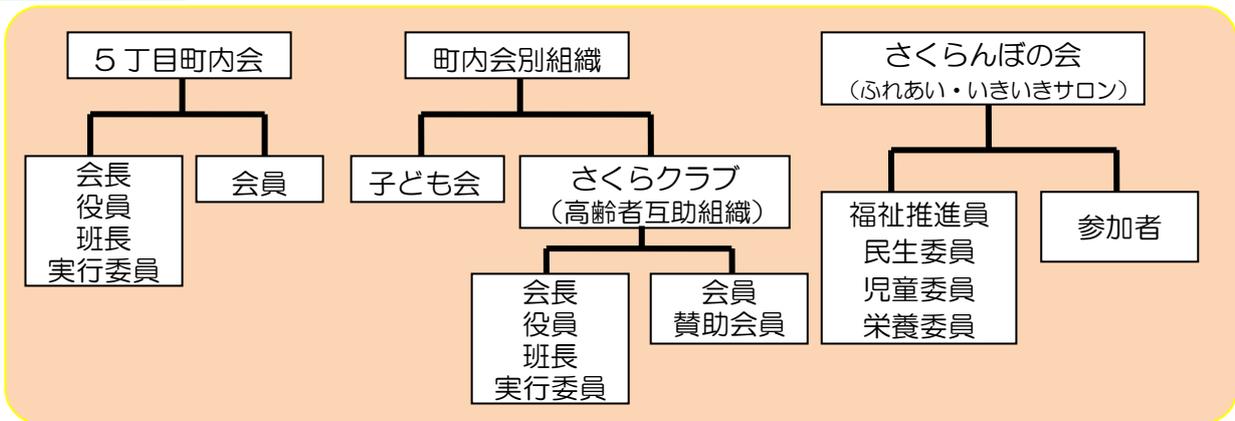


○活動紹介

H30~

団体名：桜が丘西5丁目「みんなで声かけあい」

協力員（組織図）：



活動内容：

ふれあい・いきいきサロン、いきいき百歳体操、さくらカフェ、おしゃべり会など、町内会の中でふれあいの場が増えてきている。このような集いの場で集まった際に、協力員同士で情報交換を行っています。ご近所で気軽に声かけを行う、「一声かけあう活動」を実施し、無理なく相互が助け合うことができるしくみづくりを目指しています。各活動の場で、何度も「何かあれば気軽に連絡・相談してくださいね」と話しかけて、顔を合わせたら気楽に挨拶できる環境づくりをしています。



町内のいろいろな活動に黄色いジャンパーを着用し、「みんなで声かけあい」の活動推進をアピールしています！！



○活動の成果と、課題や今後の展望

- ・活動の成果はこれから出てくるものだと考えています。各委員、各団体が中心となった活動がご近所同士の声かけに広がりを見せるように、活動を継続していけたらと考えています。
- ・福祉活動を進めていく上で、福祉推進員や民生委員児童委員、愛育委員など、特定の委員に負担が集中してしまわないように、「一声かけあう運動」により多くのかたが関わってもらえるようにしていきたいです。
- ・ふれあい・いきいきサロンやいきいき百歳体操など、定期的に人が集まる場所で今後も協力者同士の意見交換をしていきます。

活動事例 7

サロンの活性化で見守り・支え合い 助け合いネットワーク

桜が丘西6丁目町内会

○地区の概要

地区の組織・活動グループなど

- ・むつみ会・・・老人クラブ
- ・六志会・・・60歳未満の青年部
- ・いろはの木・・・ふれあい・いきいきサロン



◆「6丁目ふれあい祭り」の様子◆

桜が丘西6丁目プロフィール

- ・地区人口 1,358人
 - ・65歳以上の人口 435人
 - ・高齢化率 32.0%
 - ・世帯数 548世帯
- 令和元年10月1日現在



「地域のために何かをしたい」というボランティア精神のあふれる町内会です。集会所の看板はボランティアさんによる木彫りの作品です。

○活動を開始したきっかけ

桜が丘西6丁目では、ふれあい・いきいきサロンや百歳体操、老人クラブ活動等を通して、多くのかたが地域で活躍されています。それらの活動に参加されていることや、欠席などの様子で、お互いに健康状態などの把握ができます。

しかし、その一方で地域に出られない・閉じこもりがちなかたも多くいらっしゃることが気になり、一人ひとりの状況を把握し、見守りを行う必要があると感じました。また、今まで地域で活躍をされていたかたの高齢化が、大きな課題となっていました。

○活動経過

- ①町内会長、副会長、福祉推進員、民生委員児童委員で見守り支え合いネットワークづくりについて意見交換を行いました。
- ②町内会独自に名簿を作成しました。
- ③福祉マップづくりを実施：対象により色分けを行い、マップにシールを貼りました。（右ページ上）
保管は町内会長、民生委員児童委員が行っています。
⇒福祉マップづくりを経て、どのように見守りを行っていくか検討しました。
- ④65歳以上の高齢者を対象に「一声運動」を行うことになり、3カ月毎に「情報交換会」を行っています。
- ⑤活動を継続していく中で、福祉マップの情報更新が必要となり、再度関係者で集まり福祉マップづくりを行いました。 **参加者**：町内会長、副会長、民生委員児童委員、福祉推進員、防災部長、協力員他

福祉マップづくりについて

～世帯状況によって色分け～

- ・75歳以上の一人暮らしのかた・・・青
- ・町内のサークルなどに参加・・・黄
- ・家族と同居・・・緑
- ・デイサービス利用者・・・桃
- ・高齢で要援護者・・・赤など



◆対象により色分け◆

◆福祉マップ見直しの様子◆

○活動紹介

H29～



団体名：桜が丘西6丁目町内会「助け合いネットワーク」

構成員：20人

(町内会長、副会長、町内会総務部長、むつみ会会長、民生委員児童委員、福祉推進員、協力員)

対象者：65歳以上の高齢者

- 活動内容：①「一声運動」・・・協力員が、ふれあいサロンや地区行事の案内の為に定期的に自宅を訪問し、併せて心配事等の把握・状況把握を行う活動です。
- ②「情報交換会」・・・協力員が定期的に集まり、活動の報告・ケース検討・今後の活動について話し合います。(3か月に1回)
- ③「エプロンの着用」・・・協力員がお揃いのエプロンを着用して活動することで連帯感が生まれ、絆がより深まりました。
- ④「班長の見守り意識向上」・・・各ブロックの班長が町内会の配布物等の配布を行う際に、手渡しで渡すようお願いをしています。夜間の活動の際などに活用し、見守りの意識を向上してもらうためにLEDライトを購入しました。

○活動の成果と、課題や今後の展望

活動の成果

- ・地域をより詳しく知ることができました。
- ・地域の見守りの必要性を今まで以上に感じました。
- ・知らない情報を、他の参加者から知ることができました。
- ・各活動を行うなかでの、気づきのきっかけとなりました。
- ・サロンへの参加者が声かけにより増加傾向にあります。
- ・協力者も増加しています。

課題や今後の展望

- ・積極的な助け合いのきっかけづくり
- ・閉じこもりがちなかたの地域へ出るきっかけづくり
- ・自分たちの地域は自分たちで守るという、個々の意識のさらなる向上
- ・各地域活動の活性化
- ・各ブロックの班長の見守り意識をより向上していくことが重要



活動の様子を「わくわく通信」でお知らせしています。協力者からは自分たちの活動が紹介されてうれしいとの声がありました。



◆ふれあいサロンの様子◆

活動事例 8

「アンケート調査」をきっかけとしたネットワーク活動 桜が丘西8丁目町内会見守り隊

桜が丘西8丁目町内会

桜が丘西8丁目プロフィール

・地区人口	1,640人
・65歳以上の人口	319人
・高齢化率	19.5%
・世帯数	620世帯
令和元年10月1日現在	

○地区の概要

地域の特性など

- ・徐々に高齢化が進んでいます。
(75歳以上のかたが約140人、その内独居者が16人)
- ・高齢になると町内会から脱会する傾向にあります。
- ・町内会に入会していない世帯が100世帯以上あります。

○活動を開始したきっかけ

75歳以上の一人暮らし高齢者について、老人会が行っている活動(いきいき百歳体操、麻雀、フォークダンス、カラオケ、手芸、写真など)に参加されるかたは、体調や家で困っていることなどについて把握が多少なりともできますが、それ以外のかたの情報は、月1回行われる友愛訪問の情報しかありませんでした。

民生委員児童委員や福祉推進員が行う友愛訪問以外にも支え合いの必要性を感じ、平成29年度に「桜が丘西8丁目見守り隊」を結成し、具体的な活動を行う準備期間として進めてきました。

○活動紹介

H29~

①団体の概要

団体名：桜が丘西8丁目町内見守り隊

構成員：12人

(町内会長、民生委員児童委員、福祉推進員、老人クラブ会長、老人クラブ会員)

対象者：75歳以上のお一人で生活をされているかた

②活動内容

- 見守り隊協力者は町内の見守り活動の際にジャンパーやポロシャツを着用し、活動を行っています。
- 2か月に一度は協力者で集まり、情報交換を行っています。
- 介護予防アンケートの実施を行い、高齢者がどのような事を望んでいるのか、また、どのような事で困っているのかについて調査研究を進めました。



揃いのジャンパーやポロシャツを着て見守り隊の活動を行っています!!



平成 30 年度 介護予防アンケートの実施をしました！！

介護予防のための基本チェックリスト

「はい/いいえ」のいずれかに○をつけてください

番号	質問項目	回答
1	一人でバスや電車で外出していますか(公共交通機関の利用やご自分で自動車を運転する場合は、はい)	はい いいえ
2	日用品の買い物をしていますか	はい いいえ
3	援助介の出入れをご自分でされていますか(家族に頼む場合は、いいえ)	はい いいえ
4	知人や友人の家を訪ねていますか	はい いいえ
5	家族や知人の相談をしていますか	はい いいえ
6	階段をすすりや壁をつたわらずに昇ったり降りたりしていますか	はい いいえ
7	椅子に座った状態から立ち上がりやすくなっていますか	はい いいえ
8	15分くらい続けて歩いていますか	はい いいえ
9	この1年間で転んだことがありますか	はい いいえ
10	転倒に対する不安が大きいですか	はい いいえ
11	6か月間で2〜3kg以上の体重の減少がありましたか	はい いいえ
12	BMIが18.5未満ですか BMI=体重(kg)÷身長(cm)÷身長(cm)	はい いいえ
13	半年前と比べて履き足が履けにくくなりましたか(小さく切った履き足の場合は、はい)	はい いいえ
14	お茶や汁物など飲むことがありますが(食事時に飲む場合は、はい)	はい いいえ
15	口の渇きが気になりますか(口の中が乾いて飲み込みにくい場合は、はい)	はい いいえ
16	週に1回は以上は外出していますか	はい いいえ
17	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	はい いいえ
18	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの忘れ物があると云われますか	はい いいえ
19	ご自分で電話帳等を調べて、電話をかけることをしていますか	はい いいえ
20	今日が何月何日かわからないときがありますか	はい いいえ
21	ここ2週間(毎日の生活に充実感がない)	はい いいえ
22	ここ2週間(これまで楽しんでやっていたことが楽しめなくなった)	はい いいえ
23	ここ2週間(前は動いてできていたことが今ではおっくう)に感じられますか	はい いいえ
24	ここ2週間(自分が役立っている人間だと思えますか)	はい いいえ
25	ここ2週間(わけもなく疲れたような感じがする)	はい いいえ
26	現在病気があり、病院にかかっていますか	はい いいえ
27	現在健康である	はい いいえ

下の欄には、現在困っていることや行政に望むことを自由におかきください



▲ 2か月に一度の情報交換会

アンケート調査の趣旨：

8丁目の傾向を把握し、今後の活動に役立てる

対象者：

65歳以上で8丁目に住んでいるかた

配布枚数：

175枚を配布

回収枚数：

111枚回収(回収率64%)

アンケート調査からわかったこと・・・

国や市の行政に関するご意見や、町内会活動に関する物など、様々なご意見が寄せられました。しかし、その一方で下記の意見がありました。

- ・ 移動手段に関する問題
- ・ 高齢者世帯の生活に関する不安(体調面など)
- ・ 見守り隊の活動への感謝

調査の結果を今後の活動につなげます！！

○活動の成果と、課題や今後の展望

活動の成果

- ・ 見守り隊の活動だけでなく、町内会の各組の組長に見守り対象者を気に掛けるようお願いし、活動が広がりを見せています。
- ・ アンケート調査にも記入されていたが、見守り隊の活動が認知され、活動に対する感謝を感じている人がいます。
- ・ アンケート調査を実施することで、様々な意見を頂き、今後の活動の方向性が見えてきました。
- ・ 2か月に一度支援者会議を開催することが定例となっており、意見交換が活発にできています。

課題や今後の展望

- ・ 一人暮らしのかたの情報が入りにくいことが課題になっています。
- ・ 夫婦共働きの世帯が多く、若いかたが町内会の行事などにあまり参加できていません。今後そのようなかたにも関わってもらい、自分たちの地域は自分たちで守るという機運を醸成したいです。
- ・ 町内会組長が変わっていきませんが、今後もこのネットワーク活動が継続していけるようなしくみづくりをしていきたいです。
- ・ 各委員や老人クラブなど、各委員や団体と連携し、協力員を少しずつ増やしていくことで活動を町内会の中で活動周知していくことが必要です。

活動事例 9

自助・共助の推進で、区民全員が元気な百歳を目指して

西軽部「愛の宅配百歳会」

西軽部区

○地区の概要

地域の特性など

- ・旧赤坂町軽部学区の中心の地区になります。
- ・自主防災会組織を立ち上げ、区民の被害の防止及び軽減を図っています。
- ・ふれあいサロンは年5回、百歳体操は毎週開催しています。
- ・熊野神社、初参り、秋祭り、夏祭り（ワインの里と合同）の開催もしています。

西軽部区プロフィール

・地区人口	432人
・65歳以上の人口	177人
・高齢化率	41.0%
・世帯数	172世帯

令和元年10月1日現在

○活動を開始したきっかけ

- ★西軽部地区では、進展する少子高齢化に備え、10年先を見据えた今を考える会として、自治区執行部に福祉部長を新設するとともに、ボランティアを募集し、自治会役員、福祉関係者、子ども会役員など総勢22人で「愛の宅配百歳会」を発足しました。
- ★各自が今までの生き方を見直し、生きがいに満ちた生活をする（♡自助）と、支援が必要なかたには愛の手を差し伸べる（♡共助）、すこやかに生活できる体制を整備し、全員が百歳を目指すことを目的としています。
- ★また、子どもとのふれ愛で元気をもらい、恩返しとして通学支援や伝承活動を伝授し、子どもから高齢者まで全員がふれ愛、助け愛、心通う地区を目指しています。

○活動紹介

R1~

1

団体の概要

- 団体名 ----- 西軽部愛の宅配百歳会
- 推進員 ----- 22人（ボランティア、区長・区の役員、すこやかクラブ、歴史を作る会、民生委員、愛育委員、栄養委員、子供会役員）
- 対象者 ----- 子どもから高齢者まで区民全員

2

活動内容

- 推進会議の開催
- 回覧で活動の周知と自助活動の紹介
- 通学路の点検と横断歩道への旗・看板の設置、安全な通学支援
- 要支援者の台帳整理と高齢者等の見守り活動 など

百歳会活動ユニフォーム▼



3

活動ステップ

①百歳会設立、準備、会議（6月）



②百歳会発足式、ふれあいサロンに合わせて開催（9月）

♡ 子供会より敬老の記念品メッセージ贈呈

♡ 百歳会ユニフォーム配布



③百歳会推進会議（11月）



④通学路点検と整備



⑤通学支援開始と高齢者の見守り活動



⑥通学路、横断歩道周辺に看板作製、設置（1月）



⑦愛の宅配“百歳会”パンフレット・通信の作成、区民等への配布



幅広く知ってもらうことで理解や支援の輪が広がります▼ ▲発足式でメンバー紹介



○活動の成果と、課題や今後の展望

活動の成果

- ★通学支援にメンバーが参加することで保護者が通学支援に参加してくれるようになりました。
- ★ユニフォームを着て活動する際に、横断支援で車の対応が良くなりました。



課題や今後の展望

- ★動き始めて目に見えて来た支援に一つでも対応出来るよう、メンバーの増員、推進会議の充実をはかって行きたいと思います。
- ★今後は、要支援者の台帳整備（支援マップ）と支え愛活動の実行、百歳体操体験会や百歳農園の管理など…一例として検討していきます。

活動事例 10

「花一鉢活動」による見守りと「ゴミだし支援活動」 小原上見守り活動

小原上区

○地区の概要

地域の特性など

- ・小さい地区でまとまりが良い。集落の中心に集会所があります。組合は4つです。
- ・ふれあいサロンは12回／年実施しています。
(毎月第4木曜日を基本に定例開催。年1回三世代交流)
参加できる人はほとんど参加しています。
参加者全員が役割分担を持っています。
その月の誕生日のかたのお祝いも行っています。
- ・アダプト事業を行い、地区の環境整備を定期的に行っています。
- ・公園清掃(4月)、秋祭り(10月)など。

小原上区プロフィール

・地区人口	66人
・65歳以上の人口	33人
・高齢化率	50.0%
・世帯数	30世帯

令和元年10月1日現在

○活動を開始したきっかけ

- ★これまで地区を守ってきてくれた地区の**高齢者を大事にしたい**という思いで、サロンをはじめて12年にもなります。
その中で、最近特に高齢化もすすんできたので、高齢者をみんなで守っていくため、改めてみんなで取り組んでいくことを考えていかないといけない。**みんなでみていけば大丈夫**という思いがありました。
- ★小さい地区だから**みんなの気配りの行き届いた地区**にしていきたいと思います。
- ★サロンを12年間毎月行ってきたことで、みんなの関係が築けていてお互いの情報が入りやすい体制がありました。
- ★日頃から何気なくやっていたことでもあったが、**より意識を深めるため**取り組もうと思いました。

○活動紹介

H29~

1 団体の概要

- 団体名 ----- 小原上見守り活動
- 協力員 ----- 区長兼福祉推進員、区長代理、会計、元地区役員、民生委員、
老人クラブ会長・副会長・会計、愛育委員、栄養委員、組合長など
- 対象者 ----- 一人暮らし高齢者、高齢者夫婦



2

活動内容

- 毎月開催のサロンや、「花一鉢活動」による日常的な見守り・訪問・声かけ活動
- 「ゴミだし支援活動」の声かけ・実施



～役割を奪わないことも大切に～

自分でできるうちはゆっくりでも行ってもらい、声かけなどから見守っていきます。



見守る人も花を見に行くことがひとつのきっかけとなり、訪問を楽しみにし、見守られる人も花を枯らせないように世話をすることが生きがいにつながっています。

3

活動ステップ

1年目は、地域ぐるみで見守っていくという意識づくりとなにかあった際の連絡の体制づくり、また各組合に見守りに特に協力してくれる人を配置しました。サロンのなかでも自然と話し合いができています。

2年目は、将来困ることが予想されるゴミだし支援活動の提案と、もっと自然に見守り合えることができるようにと「花一鉢活動」のアイデアがありました。

現在のご近所のかた同士が声を掛け合いながら、ゴミだしに困っているかたの支援をはじめています。毎月のサロンと日ごろからの見守りをこれからも地域ぐるみで取り組んでいこうと思っています。

花一鉢活動

お家の玄関先に花を一鉢植え、花の世話を通じ、見守り、声かけ、訪問を行っています。

○活動の成果と、課題や今後の展望

活動の成果

- ★日ごろからみんなで地区のなかを守っていくという意識の高まりにつながっています。
- ★毎月のサロンのときにも関係者が全員出席しているので、そのなかで情報共有や情報提供、特に問題がないか自然と話し合っていくことができます。
- ★これまで地区の中で大きな問題は起きていないが、それが一番のしあわせです。



▲体調の具合等でサロンに来られなくなったかたへ見守りも兼ねてサロンで作った料理をお届け

課題や今後の展望

- ★これからも定期的に声かけなどから地域ぐるみで意識統一を図り、協力体制をこれからも継続して取り組んでいきたいです。
- ★これからも高齢化がすすんでいくことはわかっているので、笹岡学区のみんなで地域を良くしていくため、地域ぐるみで助け合っていく取り組みも進めていきたいと思っています。



▲毎月のサロンがごく自然と見守りや話し合いの場に

活動事例 11

「見張り」にならないごく自然な「見守り」活動 やがみ（区見守りネット）

弥上区

〇地区の概要

地域の特性など

- 地区の西側には、大規模団地（ネオポリス）が隣接しています。
- 見上神社をはじめ、キツネの神様など多くの神様が祀られていて、お祭りや掃除などで住民が集まる機会が多くあります。
- 老人クラブや子ども会、婦人会、青年会などは組織化されていませんが、福祉推進員を中心にしてサロンや百歳体操などが活発に行われています。

弥上区プロフィール

• 地区人口	111人
• 65歳以上の人口	55人
• 高齢化率	49.5%
• 世帯数	49世帯

令和元年 10月1日現在

〇活動を開始したきっかけ

- ★高齢化が進み、一人暮らしの高齢者が10人と全世帯の20%となっています。
- ふれあいサロンを7年間実施してきたが参加者が限られてきています。また、孤独死も2件発生したこともあり、日頃の見守りが必要ではないかと声が上がったのがきっかけです。

〇活動紹介

R1~

1 団体の概要

- 団体名 ----- やがみ（区見守りネット）
- 協力員 ----- 区長、区長代理、区総代（3人）、福祉推進員、愛育委員、栄養委員、消防団（5人）及びサロンや百歳体操の協力員（6人）
- 対象者 ----- 75歳以上高齢者、一人暮らし高齢者



2

活動内容

- 日常生活での見守り（お揃いのジャンパー着用）
- サロンや百歳体操の実施後にお互いに情報交換
- 緊急連絡先の作成



▲情報交換で共有することが大切です

「ごく自然な見守り」とは…

「さりげなく見守る」ためには、朝カーテンが開いているか、夜電気がついていないか、新聞はたまっていないか、犬の散歩のときにちょっと様子をのぞいて見る、サロンでつくった食事を持って立ち寄ってみるなど、といったちょっとした工夫があります。

岡山県社協「ご近所福祉ネットワーク活動」事例集より

3

活動経過



▲普段から着用することで防犯にも効果が

- 地区全体で団結して見守りを行うために、「やがみ」とネーム入りのジャンパーを着ての見守り活動を開始しました。
- 対象者を見守る協力員の分担を決めています。ただし、分担を決めていても地区全体で注意・見守りすることにしています。
- ジャンパーの着用は、見守りのときに限らず、犬の散歩のときなど気軽に着てもらおうようにしています。
- サロンや百歳体操などで情報交換しながら、夜間に家に明かりが点いているか確認しています。
- 対象者の緊急連絡先も作成しています。

○活動の成果と、課題や今後の展望

活動の成果

- ★構成員の意識と協調性が向上し、何か気づいたことがあれば、すぐに対応できる体制が整ってきました。
- ★緊急連絡先を作成することで、何かあったときには、地区外の家族にもすぐに連絡が取れるようにしています。



課題や今後の展望

- ★対象者がいつも監視されているという不快感で外出しづらい状況を作らないように注意していきたいです。
- ★見守りが見張りにならないように、人格とプライバシーの確保の両立が課題となっています。

活動事例 12

「緊急連絡先カード」の設置

稗田見守りネットワーク「にこにこ」

稗田区

○地区の概要

地域の特性など

- ご家族のこと（住んでいる所、何人いるなど）を誰でも大まかなことは知っています。
- ふれあいサロンや百歳体操の開催により、情報の共有が早いです。（サロンは毎月1回、百歳体操は毎週）

稗田区プロフィール

• 地区人口	218人
• 65歳以上の人口	92人
• 高齢化率	42.2%
• 世帯数	95世帯

令和元年 10月1日現在

○活動を開始したきっかけ

- ★地区の高齢化が進んでいます。
- ★民生委員、福祉推進員等単独では見守りを続けることが難しい状況があります。
- ★ふれあいサロンや百歳体操にも出かけられない人がいます。
- ★60歳代の一人暮らし男性が家の中で倒れていたことがありました。

○活動紹介

H29～

1

団体の概要

- 団体名 ----- 稗田見守りネットワーク「にこにこ」
- 協力員 ----- 区長、地区役員、民生委員、愛育委員、福祉推進員、見守り協力員、その他関りのある人など 20人
- 対象者 ----- 75歳以上の一人暮らし高齢者、80歳以上の高齢者夫婦
日中一人になる高齢者、障害を持っている高齢者、その他見守りが必要と思われる方



2

活動内容

- 緊急連絡先（対象者）カードの作成
- 協力員による見守り
- 連絡先の方との連絡を取り合う

緊急連絡先カード

- ・ 地区で統一した場所に設置
- ・ 毎年、本人の了解を得て更新

緊急連絡先は、協力員が家庭訪問し、本人の了解を得ながら作成しています。

▲地区で作成した緊急連絡先カード

ご近所見守りネットワーク「にここ」	
氏名	
見守り協力員	
緊急連絡先	
氏名	
続柄	
電話番号①	
電話番号②	
区長 ()	自宅 995-
民生委員 ()	自宅 995-
福祉推進委員 ()	自宅 995-

保存版 緊急連絡カード			
●あなたの名前、住所等を記入しましょう。			
氏名	性別		
生年月日	年 月 日		
住所	番地		
●親族や友人などの緊急連絡先を記入しましょう。			
氏名	続柄	住所	電話番号
●かかりつけの病院・施設を記入しましょう。			
施設・病院名	電話番号	自館など	
●身近なことで困りごとがありましたら、お気軽に連絡ください。			
担当職員	電話番号	福祉推進員	電話番号
救急・火事	119番	警 察	110番

3

活動ステップ

1年目は、見守りが必要と思われるかたを区の役員、民生委員、愛育委員、福祉推進員等で話し合い一覧表を作成し、家庭訪問して緊急連絡先を尋ねた。また、協力員を家庭訪問し、見守りについての具体的な活動についてお願いしました。

9月28日「にここ」活動スタート！

見守り活動は、今スタートしたばかりです。まだ活動が定着していませんし、協力員ははじめ一部の人のみで行えません。神田区の一ひとりが互いに「ちょっと気にかける」気持ちを持って支えあっていただきたいと思います。どうぞこれからもよろしくお願いします。

「ちょっと気にかける」具体的なこと

- 新聞、郵便物が何日もたまってしまっただけ・・・
- いつも散歩してるのに、ここところ会わないなあ・・・
- カーテンが閉まりっぱなしだけ・・・
- 洗濯物がずっと干されたままだけ・・・
- 夜間電灯が点いていない
- 最近、見慣れない人がよく出入りしている など。



2年目以降は、緊急連絡先カードの記載内容について、本人の了解を得て変更がないか再確認しています。

対象者以外の一人暮らしの方も訪問し、緊急連絡カードの設置をお願いしました。

◀地区内に活動をお知らせする案内文（一部抜粋）
一部のかただけでなく、地区の皆さんに意識をもってもらいます

○活動の成果と、課題や今後の展望

活動の成果

- ★活動が継続できていることで、気になることが起こった時に周りの人たちでスムーズな対応ができるようになり、地域で見守るという意識が以前よりも強くなりました。
- ★対象者の家族のかたのけがをきっかけに、行政に繋げサービスを受けられるようになりました。
- ★協力員や周囲のかたがたが継続的な見守りがしやすくなりました。
- ★認知症の一人暮らし高齢者のかたの様子を緊急連絡先のかたと連絡を取り合いながら現状を細かく共有することができるようになりました。

課題や今後の展望

- ★災害時緊急避難等との連携を深めていきたいと思っています。



活動事例 13

「若い世代と高齢者世代の連携」消防・防災活動をつなぐ見守り活動

円光寺見回り会

円光寺区

○地区の概要

地域の特性など

- 熊山地域中心部の松木地区に隣接しています。
- アパートが多く建設されており、72世帯が住まれています。
- 近くに工業団地があり、外国人労働者も多いです。

円光寺区プロフィール

• 地区人口	293人
• 65歳以上の人口	71人
• 高齢化率	24.2%
• 世帯数	128世帯

令和元年10月1日現在

○活動を開始したきっかけ

- ★地区内の高齢化が進んでいたり、高齢夫婦世帯が増えたりしています。
- ★具合が悪くなっても、近所に家がなく知らせることが難しいかたもいます。



○活動紹介

H30~

1

団体の概要

- 団体名 ----- 円光寺見回り会
- 協力員 ----- 区長、サロン代表者、消防団、老人クラブ
- 対象者 ----- 一人暮らし高齢者



2

活動内容

- 一人暮らし高齢者宅の訪問・安否確認
- 定例会（偶数月）での情報交換
- 消防団活動にあわせた見守り活動と活動記録の整備



ちょっとしたお助けも

足のケガにより歩行困難になったかたの買い物を、消防団でお手伝いもしています。

3

活動ステップ

区長をはじめ、消防団と老人クラブ、サロンのメンバーで円光寺見回り会を結成。若い世代と高齢者世代の連携による訪問・安否確認のしくみづくりを考え、消防団の定期見回り活動にあわせて対象となる高齢者の見守り、声かけを行うようにしました。

また、サロン活動を活かして、サロンに来られなくなったかたについては、サロンの参加者同士で気になるかたを見守りや声かけ活動をはじめました。

それぞれの活動を行いながら、見回り会として定例会（偶数月）を持ち、協力員のなかで情報交換や気になるかたの状況、活動の改善点などを話し合い、連携を高めていく取り組みを行っています。



▲情報交換を繰り返すことで、連携が深まり、活動が充実していきます

○活動の成果と、課題や今後の展望

活動の成果

- ★日々、訪問したり、声かけしたりすることによって、顔の知らなかったかたに消防団のメンバーの顔を覚えてもらうことにつながりました。
- ★話をしたり、聞いたりしたことにより、一人暮らしの高齢者のかたがたが少しずつ元気になっているように感じます。
- ★非常時の速やかな連絡体制ができました。

課題や今後の展望

- ★訪問時にメンバー1人で訪問していたが、2人以上で訪問するようにしています。
- ★今後の展望としては、避難訓練を消防団が中心となってい、災害時等に活かしていきたいと思っています。



活動事例 14

統一したパーカーで、見守られる人も見守る人も元気で活動しよう！
松木げんきだヨ！！

松木区

○地区の概要

地域の特性など

- ・地域の行事やふれあい・いきいきサロン活動等にも比較的若い方の協力も得られています。
- ・お花見（4月）、敬老行事（9月）

松木区プロフィール

- ・地区人口 166人
 - ・65歳以上の人口 62人
 - ・高齢化率 37.3%
 - ・世帯数 49世帯
- 令和元年10月1日現在

○活動を開始したきっかけ

松木地区では、もともとふれあい・いきいきサロンを実施していましたが、参加者に高齢者も多くサロンの参加者も含めた日頃の地域見守りが必要ではないかということを感じ、見守りネットワークを開始することとなりました。

また、見守りをすることで見守りをする人も声かけや散歩をすることで元気になればという想いが活動を始めたきっかけです。



○活動紹介

H29～

1

団体の概要

- 団体名 ----- 松木げんき会
- 協力員 ----- 11人（区長、福祉推進員、民生委員、サロン協力員等）
- 対象者 ----- 一人暮らし高齢者、ご近所の高齢者世帯等



2

活動内容

- ご近所の高齢者の方の見守り、声かけ活動
パーカーを着ての見回り
- お互いに日常的な用事での情報交換
(広報配布や回覧時など)



▲日常的な用事から情報交換で無理のない活動を

3

活動ステップ

- ①活動開始に向けた話し合い
- ②協力員の募集、活動内容の確認、対象者の確認
- ③サロン等での見守り活動開始
- ④構成メンバーで相談し、パーカーを作成
- ⑤パーカーを着てのご近所見守りを開始
- ⑥定期的な情報交換会の開催



▲松木げんきだヨ！！設立当初メンバー

活動を開始して3年目になりますが、パーカーを着てのご近所見守りを継続し、情報交換を定期的に行っています。お互いに何か気づいたことがあったら声を掛け合い、区長兼福祉推進員を中心に対応できるようにしています。

○活動の成果と、課題や今後の展望

活動の成果

- ★以前よりも地域の高齢者の方やご近所との会話が増えました。
- ★パーカーを作成したことで、活動の認知度も上がり、周知もしやすくなりました。
- ★見守り活動をすることで、見守られる人も見守る人も元気で活動しようという目的が少しずつできていっていると思います。



課題や今後の展望

- ★見守り活動を開始し、これから次のステップをどうしていくかが課題です。
- ★今後も、引き続き見守り活動が元気で活動できるように続けていきたいと思っています。

◀松木げんき会の様子
統一したパーカーで一体感があります

活動事例 15

「普段の見守り」と「定期的な情報共有」

桜が丘東1丁目「日回り会」

桜が丘東1丁目町内会

○地区の概要

地域の特性など

- ・若い世代の方の転入が多いです。
- ・ふれあいサロンは24回／年実施しています。
(毎月第1・3月曜日に定例開催)
参加者全員が役割分担を持っています。
その月の誕生日のかたのお祝いも行っています。
- ・百歳体操の集いも開催しています。(毎週水曜日)
- ・町内ボランティアが組織されています。
- ・運動会(11月)、防災訓練(12月)、年末夜警(12月)など

桜が丘東1丁目プロフィール

・地区人口	1,655人
・65歳以上の人口	235人
・高齢化率	14.2%
・世帯数	610世帯
令和元年10月1日現在	

○活動を開始したきっかけ

- ★ふれあい・いきいきサロンの開始から5年が過ぎた頃から、以前はサロンに参加されていたかたが来られなくなったり、参加者されているかたに少し認知の低下が見られたりと、高齢になられたかたを心配する話がサロンで出てくるようになりました。
- ★そこで、サロンに参加されているかたを中心にして、ご近所の高齢者の見守りやサロンへのお誘い・見送りをやってみようということになりました。
- ★地域全体で団結して見守りを行うために、オリジナルのパーカーを着用して活動を行うことにしました。

○活動紹介

H29~

1 団体の概要

- 団体名 ----- 桜が丘東1丁目「日回り会」
- 協力員 ----- 町内会長、福祉推進員、民生委員、
サロン協力員など20人
- 対象者 ----- 一人暮らし高齢者、高齢者世帯



2

活動内容

- 毎月開催のサロンや、オリジナルパーカーやポロシャツを着て日常的な見守り・声かけ活動
- サロン終了後に「情報交換会」を開催



散歩や買い物、ゴミ出しなど町内を歩く時にはお揃いのパーカーやポロシャツを着て、見守り声かけ活動を行います。



見守る人の
何気ない普段の行動が見守り活動に見守られる人を限定しない
地域全体の見守りが行われています。

3

活動ステップ

1年目は、活動開始に向けた話し合いと協力員の募集、活動内容の確認を行いました。また、オリジナルのパーカーを作成し、お揃いのパーカーを着ての見守り活動を開始しました。

2年目は、夏場用にオリジナルのポロシャツを作成し、年間を通じて、着用できるようにしました。

普段の行動を行うことが、地域全体の見守り活動と防犯にも役立っています。

防犯にも一役！！

子どもの防犯にも役立つと若い親御さんからも「ありがとう」の声を掛けられます。

○活動の成果と、課題や今後の展望

活動の成果

- ★以前よりも地域の高齢者のかたやご近所のかたとの会話が増えたことを実感しています。
- ★お揃いの服装で活動を行うことで活動の周知と地域の防犯にもつながりました。
- ★サロンや百歳体操へのお誘いや送迎など住民同士の支え合い活動が見られるようになりました。

課題や今後の展望

- ★この活動を継続することで、お互いに気軽に頼れる関係づくりにつなげていきたいと思っています。
- ★課題としては、協力員本人の体調や悪くなったり、ご家族の介護などで活動に参加しにくくなるなどの状況が見えてきました。
- ★協力員が減少しないように町内会の各種行事に参加して、少しでも若い世代の地域を担うかたを活動に巻き込んでいく必要があると考えています。



▲情報交換会の様子

活動事例 16

制度の狭間を埋める、見守りと生活支援の「地域助け合い活動」 東4生活支援ネット

桜が丘東4丁目町内会

○地区の概要

地域の特性など

- ・移住してこられた高齢者と若い世代の混在地域で、元々地域とのつながりが薄いのではないかと思います。
- ・一人暮らしの高齢者 29 人（わかっている範囲）
- ・老人クラブ加入世帯は 24 世帯、家族含めて 43 人です。
- ・ふれあいサロン、百歳体操への会員外の参加者は 9 人です。残りの 213 名は地域とのつながりが薄いと思います。

桜が丘東4丁目プロフィール

・地区人口	1,311 人
・65 歳以上の人口	277 人
・高齢化率	21.1%
・世帯数	480 世帯

令和元年 10 月 1 日現在

○活動を開始したきっかけ

- ★一人暮らしの高齢者が多く、万一異常事態が発生した時の地域での気付きが心配と感じました。
- ★マイカーを持たないかた、運転できない状態での通院、買い物に苦労されているかたがおられます。
- ★集会所までの資源ごみの運搬にも苦労されています。

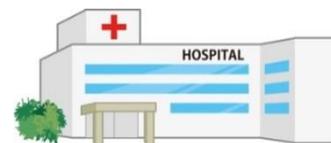
○活動紹介

H30~

1

団体の概要

- 団体名 ----- 桜が丘東4丁目高齢者生活支援ネットワーク
(通称：東4生活支援ネット)
- 協力員 ----- 福祉推進員、住民有志など 31 人
送迎、運搬支援員 13 人。独居の見守り協力員 18 人。
- 対象者 ----- 移手段のない高齢者（年齢は問わず）
※送迎は自力で乗車できる方に限る（乗降時の事故防止の為）



2

活動内容

- 一人暮らしの高齢者の見守り
- 病院送迎
- 資源ごみ運搬
- 買物同行

3

活動ステップ

- ・老人クラブ会長（福祉推進員兼務）が平成 29 年末頃より個別に一人暮らしの高齢者のかたに緊急連絡先を聞き、近所のかたによる見守りを了解していただく。その近所のかたに見守り協力を依頼しました。
- ・平成 30 年の町内会総会、老人クラブ総会で立ち上げを提案しました。
- ・町内会長に立ち上げを相談後、準備会を 3 回行いました。
- ・町内会で「東 4 生活支援ネット」発足、支援メンバー紹介のチラシを回覧しました。
- ・町内会で活動報告のチラシを回覧しました。
- ・発足時は毎月開催していた情報交換会を、2 年目より隔月第 1 火曜日に変更して開催しています。（町内会長、副会長、顧問も参加しています。）



▲資源ごみ出しなどは力仕事で助かっています

「東 4 生活支援ネット」だより

も発行しています♪

青年層の活躍！！

資源ごみ出しの支援メンバーは青年層が主力！！

軽トラ所有で大型家具の運搬も可能で大変喜ばれています。

○活動の成果と、課題や今後の展望

活動の成果

- ★発足後約 1 半年であるが、病院への通院者からの依頼が多く寄せられました。
- ★当初は市内の病院・医院への送迎を想定していたが、市外病院への依頼が多かったです。
- ★資源ごみ出しでは、支援メンバーは青年層が主力で、軽トラックを所有するかたもいて、ベッド・タンス等大型家具の運搬も可能で、大変喜ばれています。
- ★買い物同行も徐々に依頼が出てきました。
- ★声掛けすればボランティアで支援されるかたは見付きり、十分対応可能なことが分かりました。

課題や今後の展望

- ★今後、80 歳以上の一人暮らしの高齢者、移動困難な高齢者世帯が急増すると予想されます。
- ★支援依頼者は老人クラブ会員や日頃から顔見知りのかたが殆どです。それらのかたでもまだ遠慮があり、ボランティアを遠慮なく受け入れてもらえるよう地道な活動を続けたいと思っています。
- ★買い物同行はまだ実績は少ないですが、更に依頼しやすい態勢を検討したいと思っています。

東 4 生活支援ネット 支援実績 (H30/6月~R1/12月末)	
病院送迎	支援員 5 人 依頼者 12 人 延べ人数 57 人 (うち市外 35 人)
資源ごみ出し	支援員 6 人 依頼者 9 人 延べ人数 24 人
独居者見守り	見守り対象者 18 人 見守り協力者 18 人
買物同行	支援員 4 人 依頼者 3 人 延べ人数 6 人

- ★見守りを不要とされるかた（迷惑をかけたくない、関わられたくない等）の見守りをいかにするかを考えたいと思います。
- ★負担をかけない見守りと異変の早期気づきをいかに両立させるか。
- ★町内会には今後も機会ある毎に「東 4 生活支援ネット」の活動を紹介していただこうと思っています。
- ★一人暮らしの高齢者の見守りは定期的な訪問では不十分。日頃の異常なしサインの発信と、近所のかたの異変の気づきが肝要です。

▲広報を続けることで支援の輪が増えていきます



令和2年3月発行



社会福祉法人 赤磐市社会福祉協議会

地域福祉課	〒709-0821	赤磐市河本 778-1	☎955-8877
赤坂事務所	〒701-2222	赤磐市町苅田 517-1	☎957-2334
熊山事務所	〒709-0705	赤磐市松木 636-1	☎995-2336
吉井事務所	〒701-2503	赤磐市周匝 136-1	☎954-2533